ニューヨークでオペラとミュージカルを観る

沖縄県公務員医師会　安次嶺　馨

1　ニューヨーク再訪

初めてニューヨークを訪れたのは、半世紀前。シカゴでの小児科研修医時代に、妻と1歳の息子とともに2週間、車でアメリカ東部からカナダに及ぶ旅をした時だった。その時、オペラのチケットを買えない貧乏研修医は、オペラハウスの噴水広場の前で記念写真を撮っただけだった。

2023年5月の旅は、ニューヨークに5日間滞在し、オペラを3夜、ニューヨーク・フィルを1夜鑑賞した。また1日はブロードウェイのミュージカルのマチネ（昼公演）を観た。ホテルは、オペラハウスの噴水広場の道向かいにあるエンパイア・ホテルという、名前の割には価格が安いホテルだった。これは、築100年近いのではないかと思うくらいの代物で、アメニティは最低、利便性は最高だった。

2　リンカーン・センターとメトロポリタン歌劇場

リンカーン・センターは、マンハッタンのアッパー・ウエスト地区にある総合芸術施設。メインの建物は噴水広場の正面にメトロポリタン歌劇場、左側にバレーシアター、右側にコンサートホール、その北側の通りを隔ててジュリアード音楽院がある。

メトロポリタン歌劇場は1883年、ニューヨークの大富豪たちによってブロードウェイの39～40丁目に建設された。座席数は3,849席で、当時から世界最大級のオペラハウスとして知られた。これがきっかけとなって、この地域にブロードウェイ・ミュージカルの劇場街が形成された。1966年、リンカーン・センター内に新メトロポリタン歌劇場（3,995席）が移設された。民間の出資者たちを中心に広く寄付を募って運営する、公の後ろ盾をもたないオペラハウスである。

3　オペラ鑑賞の3夜

第1夜は「ラ・ボエーム（プッチーニ）」、第2夜は「さまよえるオランダ人（ワグナー）」、第3夜は「魔笛（モーツアルト）」を鑑賞した。

ラ・ボエーム

第1幕では、ボヘミアン達の屋根裏部屋が、客席から見て手前の建物の屋根越しに一段高く造られている。部屋の窓から外の世界を見る時は、客席に向かう窓から身を乗り出し、また手前の屋根瓦の上に降り立つという演出が斬新だった。第2幕のカルチェ・ラタンの場で、背景には市街地の高層建築の明かりの灯った窓が写実的に描かれている。背景はいくつもの絵を重ねて、遠近感がある。このような舞台装置や群衆の集団演技は、目を見張るばかりだった。

歌い手はロドルフォ役のテノールが小柄で、やや声量不足であった。一方、ミミ役は大柄でふっくらしたタイプで、病弱のヒロインを演じるには少し違和感があった。しかし、総合的に見て、これこそメトロポリタンのオペラだと納得した。観客は大部分が白人系で、服装はカジュアルあるいはTシャツなどが多い。

メトロポリタン歌劇場と噴水広場

私はとりあえず準備してきたジャケットにネクタイという出立ちだが、これでもネクタイを締めている者は10人に1人くらいなので、かなりフォーマルに近いといえる。

さまよえるオランダ人

本来、3幕物であるが、休憩なしの上演だった。ステージの背景は1枚の大型スクリーンのみ。場面の転換は、ほとんど映像で表現する斬新な演出。嵐や波濤の場面を映像と照明で表現しており、映画のシーンのような迫力がある。座席は2列目でオーケストラピットが目の前にあり、指揮者の上半身がピットの上に出ていて、指揮ぶりがよく見えた。

魔笛

新演出という触れ込みだが、これには面食らった。魔笛はもともと喜劇的要素の多い作品であるが、これが、やりすぎなくらいの破茶滅茶ぶりだ。主役の王子タミーノは背の低い太った黒人で、ステテコ姿のおじさん風。一方で悪役のモノスタトスは本来、黒人の道化風の肥満者であるが、ここでは背の高いイケメン白人。夜の女王は車椅子のおばあさん、3人の侍女はよれよれの中年女で、徹底的にキャ
ラをいじくり回す。演出家が奇をてらって注目を集めようとしているのかも。舞台装置はシンプルで、背景の大型スクリーンに映像を投影し、タミーノとパミーナを空中遊泳させたり、いろいろな試みが興味深かった。

4　ニューヨーク・フィルのコンサート

ニューヨーク・フィルの本拠地であるコンサートホールは、1962年に建設された2,700席の大ホール。私は、最上段の3階中央席から、広いホールを俯瞰しながら聴いた。演目はシベリウスのバイオリン協奏曲と、アメリカの女性作曲家ジュリア・ウルフ の世界初演曲「Un Earth」で、地球環境の悪化に警告を発する、合唱付きのオーケストラ曲。背景に迫力ある映像が投影されるステージだった。あえて感想を言えば、カール・オルフの「カルミナ・ブラーナ」を彷彿とさせる曲だった。

5　ブロードウェイのミュージカル

ブロードウェイ(Broadway)は、ニューヨークのマンハッタン島で南北に20km以上続く道路である。しかし、通常は、タイムズスクェア周辺の劇場街の歩行者天国のある通り一帯をさす場合が多い。今回観たステージは、大人も子どもも楽しめる「ライオン・キング」で、午後1時30分開始のマチネだった。これは、ミンスコフ劇場(1,651席)で1997年に初演して以来、今日までロングランが続いていている。日本でも、1998年に劇団四季が上演して以来、現在までロングランが続いているようだ。

おわりに

ニューヨークに滞在した短い5日間であったが、夜はオペラとコンサートを楽しみ、昼は市内を歩き回った。1日の歩行数は13,000～22,000歩に達した。若い頃は、マンハッタン、ブロンクス、クイーンズを車で縦横に走ったのであるが、今回はセントラル・パーク南のミッドタウン地区を足で廻った。5番街のティファニー、サックス・フィフス・アベニュー、トランプ・タワー、ロックフェラー・センター、そしてエンパイア・ステート・ビルの展望台から摩天楼を眺め、そこからブロードウェイを通ってホテルへ戻った。途方もなく巨大だと思っていたニューヨークであるが、その中心部は散歩を楽しめる、意外にコンパクトな街だと認識した。

ニューヨークの数ある音楽シーンの中で、オペラとミュージカルを垣間見た数日であったが、滞在したエンパイア・ホテル、リンカーン・センター、ブロードウェイなどは、長年住んだ街の風景のように思い出される。

ブロードウェイの中心街・タイムズスクェア